

みずほCustomer Desk Report 2017/11/27号(As of 2017/11/24)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	USD/CHF	公示仲値 GBP/USD	111.47 AUD/USD
TKY 9:00AM	111.27	1.1850	131.86	0.9817	1.3298	0.7625
SYD-NY High	111.63	1.1944	133.23	0.9826	1.3360	0.7632
SYD-NY Low	111.16	1.1837	131.76	0.9787	1.3278	0.7607
NY 5:00 PM	111.54	1.1933	133.10	0.9796	1.3345	0.7619
USD/JPY Volatility 1M ATM (NY Close Lvl)	7.485/7.87		Δ 25RR	0.835	Yen Call Over	
NY DOW	23,557.99	31.81	債券市場	日本2年債	-0.1780	0.6bp
NASDAQ	6,889.16	21.80		日本10年債	0.0290	0.4bp
S&P	2,602.42	5.34		米国2年債	1.7443	1.8bp
日経平均	22,550.85	27.70		米国5年債	2.0636	2.2bp
TOPIX	1,780.56	3.48		米国10年債	2.3418	2.3bp
シコ日経先物	22,655.00	245.00		独10年債	0.3600	1.3bp
ロンドンFT	7,409.64	▲7.60		英10年債	1.2500	0.1bp
DAX	13,059.84	51.29	為替市況	豪10年債	2.5040	▲0.5bp
ハンセン指数	29,866.32	158.38		USD/CNH	6.5881	0.0091
上海総合	3,353.82	1.90	商品市況	ドルインデックス	92.78	▲0.44
USDJPY 3M Vol	7.97	▲0.20%		CRB指数	192.215	0.61
USDJPY 6M Vol	8.67	▲0.11%		NY金	1,291.80	▲5.00
EURJPY 3M Vol	7.76	0.07%		WTI	58.95	0.93
EURJPY 6M Vol	8.77	0.08%		Dubai Spot	61.10	0.43

アジア	ドル円はオセアニア時間に安値111.16をつけ、111.26レベルで東京時間オープン。日米の休暇明けであることや五・十日であることから本邦輸入企業によるドル買い円売りが意識される中、ドル円は公示仲値の発表にかけて111.45まで上昇。公示後には111.27まで反落する場面も見られたが、ドル円は米10年債利回りや日経平均株価の上昇を横目に東京時間高値111.51まで上値を伸ばした。その後、111.40台で方向感無く推移し、111.50レベルで海外へ渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン時間、ドル円は小幅な値動きとなった。111.50レベルでオープン。ドイツの政局安定への期待感やドイツの良好な経済指標が発表されたことからユーロ円が上昇、ドル円は連れ高となり底堅く推移する場面も見られたが、新規材料難から上値を積極的に追う展開とはならず、111.36レベルで海外に渡った。ユーロドルは堅調推移となった。1.1850レベルでオープン。メルケル独首相率いるキリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)に第2党であるドイツ社会民主党(SPD)が連立協議に応じる可能性が出てきたことや、独11月IFO企業景況感指数が117.5と過去最高となったことでドイツ経済の好調さが確認され、約2か月ぶりの高値1.1875まで上昇し、1.1874レベルで海外に渡った。(00531 444 179 ロンドン・トルフリー 西海)
ニューヨーク	海外市場のドル円は111円台前半で方向感なく推移し、111.36レベルでNY時間オープン。ドイツ経済指標良好な結果となったことからユーロ円が上げ幅を拡大したことから、ドル円も連れ高となり、朝方から堅調推移。OPEC総会を来週30日に控える中、OPECがロシアと2018年末まで減産延長で枠組み合意したとの報道を受けてWTI原油が上昇したことや、年末商戦のオンライン小売売上高が昨年対比+16.8%との報道を背景に、エネルギーや小売セクター主導で米株が堅調に推移し、ドル円は111.60まで上昇。米債や米株市場が短縮取引であることから、閑散なマーケットのなか、ドル円は高値111.63まで続伸し、111.54レベルでクロス。なお、昼前に、「ロンドン中心部で発砲との通報を受け、周辺地域を一時封鎖」とのヘッドラインが流れ、円の可能性も疑われたが、結局発砲の証拠は見つからず、1時間半後に緊急警戒も解除され、相場への大きな影響はみられなかった。一方、ユーロドルは1.1874レベルでNY時間オープンし、堅調に上げ幅を拡大。連立政権樹立が難航していた独政局であったが、当初連立に加わる可能性を否定していた最大野党のドイツ社会民主党(SPD)が連立樹立の可能性を示唆したことから、政治不透明感の後退期待も支援材料となり、ユーロドルは上げ幅を一段と拡大し、9月20日以来となる高値1.1944まで上昇し、1.1933レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当: 加藤・田家

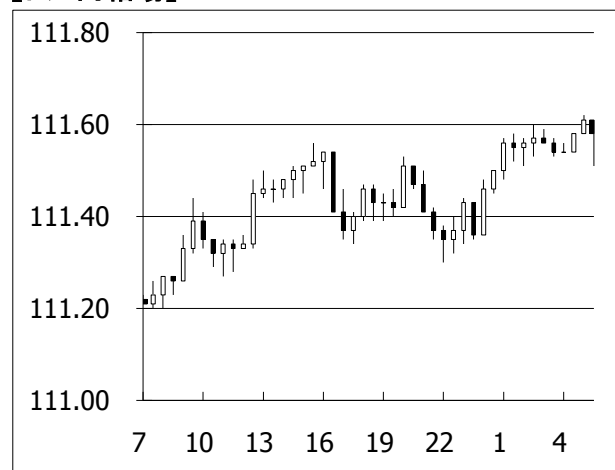
【昨日の指標等】

Date	Time		Event		結果	予想
11月24日	8:50	日	対内・対外証券投資	-	-	-
	18:00	独	IFO指数(企業景況感/期待/現況)	11月	117.5/111.0/124.4	116.7/108.8/125.0
	23:45	米	マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)・速報	11月	53.8/54.7/54.6	55.0/55.3/-

【本日の予定】

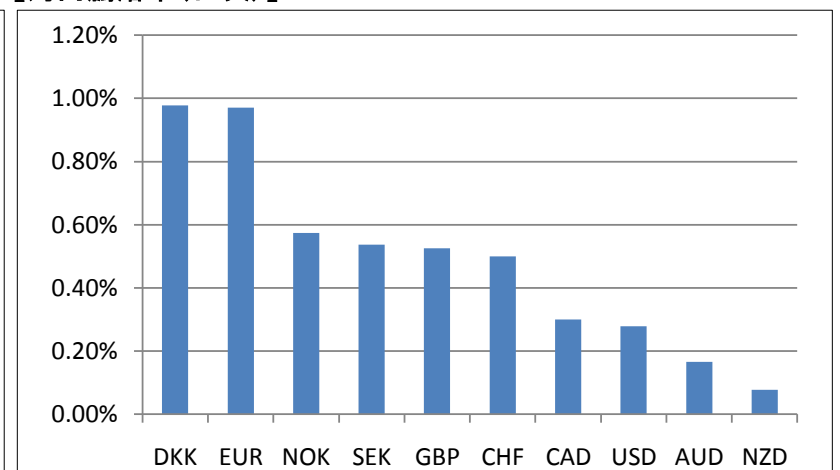
Date	Time		Event		予想	前回
11月28日	0:00	米	新築住宅販売件数	10月	625K	667K
	0:30	米	ダレス連銀製造業活動	11月	24.0	27.6

【ドル円相場】



【マーケット・インプレッション】

【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	110.50-111.50	1.1820-1.1900	131.20-132.20

【マーケット・インプレッション】

22日のドル円相場は、冴えない米経済指標やFOMC議事要旨を受け、大幅に下落。米10月コア耐久財等の経済指標が市場予想を下回り、22日NY序盤から下げ始め、FOMC議事要旨が発表されると111円前半に下げ幅が拡大し、約2ヶ月振りの安値をつけた。FOMC議事要旨では「近い将来」金利を引き上げる必要があるとの見方が示した一方で、低い物価上昇率の持続性が懸念され、来年の利上げペースに影響するとの見方が広がった。23日はニューヨーク休場で取引が閑散となり、ドル円相場は横這い推移となった。本日のドル円は上値重い推移を予想する。引き続き休暇ムードが継続し、取引が薄い状況が続く中、根強いリスク回避姿勢を背景に、ドル円は111円前半で上値重く推移しそうだ。